

●竹島渡航日記 (四) 旅行者某生

▲實際にアジカの居る所に行き見れば聞いて居た談とは多少違つて居た如何にしても實見をしなければならぬものであるアジカを捕獲する所は洞穴であければからぬ一方から他方に遷する様を洞穴の中に多数群がつて居るそこで一方の洞穴の前面に網を張り他方の洞穴には番人を置いて逃れ去ることを防ぐのであるやかく網も張られた用意は充分であつた我々のテンマは今や岸に到着し我れ先にと岩上に飛び移らんとする時遂一頭ずつて網にかゝつたのである網の巾さは凡そ四尺長さは適宜である網の目は七八寸と云ふ處であるが實にアジカは馬鹿なものであつて洞穴から水中を潜り出てんとする時網の目より頭をさすのであるそこで充分注意さへして居れば一頭も餘す所はない程によく捕へらるゝのであるアジカも亦少しく深い所をくゞれば逃れ得らるゝものをもと憐れに思はれた若し之が獅子や虎の様に恐ろしく憎い所があれば幾頭捕ふるも捕ふる丈け壯快であろうされども彼れアジカあるものは何の悪戯もあさす女子供の様に無邪氣に戯れて居るのが網にかゝつて水中で窒息する呼吸が出来ないからよく泡を吐す所をどは實に氣の毒なものであつた我々が捕ひしものゝ中では大なるものは長さ六七尺小さきものとても四尺に餘る箇様ものが僅か二時間も立つた

ぬのに十頭計りも取れたのである箇様に容易く網にかゝる所は不慮なものであるけれども實に其馬の様なものが幾頭と多く岩上に積み重ねて山を築いた所は何とも言はれぬい壯觀であつた初め吾々はかく思つて居た中井君が昨年千頭獲たと云ふ話は余りに大きいらしいとされども尙状態を目撃し却つて話より實際の大なることを知つたのである洞穴の前面風静かに水清き所に漁夫は今や網よりアジカを擧げんとして居る神西部長其他の人は黒い岩上に佇立して居る我輩は漁船の上で泰然たる所を大野君の口笛一聲宜しと云ふ所で撮影したのである

▲さて之から再び漁船に乗りて對岸の島に渡らんとしたが一頭のアジカは來りて又實際の網の目に頭をさしたのである箇様も有様であつて實に止むるにも止められぬ程よ面白く採れた生きたアジカは網の目の中で一寸頭を擡げて人を見ては又沈んで居る誠に滑稽であつた其黒く曲つた所の頭をば時々水面に出す所をどは全く池の中のカイツムリか浮沈するのど少しも替らぬ様に見へた

▲豚や犬の様を放つた所のアジカは水の上に猫や虎の様を發する所の鷹は空に鳴き驚き迷ふ所の幾千の動物群の中を悠々として我々探検船は進むのである一雙の屏風の如くに聳立する竹島海峡の間に轟然たる浪はどいろき渡り水平線は圓く之を包むことの外何も見られぬし